

1. 単元名 「ふくすみのあきをみつけよう」

2. 単元の目標

- ・秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、遊びのおもしろさ、自然の不思議さに気づくことができる。 (知識・技能)
- ・秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったり、身近な自然の違いや特徴を見つけたりすることができる。 (思考・判断・表現)
- ・秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れて自分の生活を楽しんだり、みんなと楽しみながら遊びを創り出したりしようとするすることができる。 (主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、生活科の内容(5)「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見つけることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること」に気づくとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しもうとする。」及び(6)「身近な自然を利用したり、身近にあるものを使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気づくとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を受けて設定したものである。

ここでは、秋の自然を発見し観察したり、木の実や木の葉を使った遊びをしたり、おもちゃや飾りを製作したりすることを通して、季節の変化とともに自分たちの生活に秋を取り入れていくことの楽しさに気づき、自然に親しむことをねらいとしている。自分たちが育てたあさがおのつるも飾りに変えることができると知り、植物は見るだけでなく作品にできる楽しさもあると気づくことが期待できる。また、自分たちの住む町は、豊かな自然に恵まれているということに気づき、自然保護のためにまずは、町の魅力を発信する必要があると気づくこともねらいの一つとしている。

単元の最後に、自分たちの成果物を『ふくすみのあきブック』としてまとめ、来年度入学してくる児童へのプレゼントにすることで、入学してくる児童に知ってほしいという思いから進んで学習に参加することができると思う。また、自然豊かなまちに住む者として、自然を守ろうという思いが芽生えることが期待できる。

(2) 児童観

本学級の児童は、明るく元気、好奇心旺盛でどのような活動にも意欲的に取り組むことができる。休み時間には、生き物を探しに行くこともある。また、2年生が生き物をたくさん飼育しており生き物に詳しいことから、2年生に生き物を貰ったり飼育の仕方を聞いたりしている姿も見られる。しかし、生き物に触れることに抵抗を感じている姿も見られる。そのため、本単元において身近な自然に関わることで、生き物に触れることへの抵抗感を少し減らすことができる機会になると考えている。

春や夏には、学校の生き物を調べるために散策をしたり、公園へ出かけたりすることで、福住のまちにある季節の自然と触れ合う体験をしている。「さいてほしいな わたしの はな」では、あさがおを育て観察をしてきた。秋になりつるの様子が変わっていることに気づいている。

(3) 指導観

指導に当たっては、児童が秋の自然を楽しみ、その素晴らしさを感じられるようにすること、児童の思いや願いに沿った活動を行うことを心がけていきたい。

第1次では、登下校時や休み時間に見られる生き物について気づいたことを交流する。

第2次では、秋の自然を見つけたり集めたりする探検に校内や校外へ出かける。そこで身の回りにある秋や、自然の様子が春や夏から変化していることを感じられるようにしたい。

本学級の児童は、2名と少人数であるため2年生と合同で町探検に出かける。そのため、秋ビンゴを利用することで1年生の町探検の目的が明確にわかるようにし、意欲的に福住の秋を見つけることができるようにしたい。探検の後には、見つけた秋の中から一番心に残っているものについて生活科シートに書き出す活動を行う。これにより、自分が自然に触れどのように感じたのかを整理することができる。また、見つけて捕まえた生き物は、自分たちで飼育するか逃がすかを決め、飼育する際には毎日様子を見て餌を捕まえたりする必要があることを伝え、命の大切さに気づかせたい。

第3次では、探検で集めたものや家の近くで集めた自然物を並べたり、触ったり、音を出してみたりして遊び、素材と関わり特徴に気づけるようにする。その後、自然物を使っておもちゃや飾りを製作することで、児童がどのようなものを使ってどのようなものを作りたいか考えが浮かびやすくなるようにしたい。また、家で使わなくなった箱や紐などを再利用してもよいことを伝え、身近にあるもので工夫して遊ぶことの楽しさにも気づかせたい。

第4次では、福住の秋に焦点を当て、オリジナル秋ビンゴを作り、第2次で見つけた秋についての成果物と第3次で作ったおもちゃや飾りの感想や作り方をまとめたものと一緒に『ふくすみのあきブック』を作る活動を行う。その際、新しい1年生にプレゼントすることを考え、見やすく伝わりやすいものになるように工夫させたい。

最後に、単元全体を通してできるようになったことや成功したこと、もっと工夫してみたかったことなどを振り返ることで、自分の成長や課題に気づけるようにし、3学期の「ふゆとともだち」「もうすぐみんな2年生」の活動に繋がられるようにしたい。

(4) ESDとの関連

○本学習で働かせるESDの視点(見方・考え方)

多様性…自分たちの住んでいる町には、様々な植物や動物が存在していることを知る。季節にはいろいろな顔があることを知る。

責任性…町の自然を守るために自分たちは、町の魅力を発信しなければならないと気づく。

○本学習で育てたいESDの資質・能力

・進んで参加する態度

自分たちの町にある秋を見つけ、自然を利用した楽しみ方を考え、友だちと一緒に遊んでみたり次の1年生に伝える方法を考え実行したりする。

・つながりを尊重する態度

自然などの生態系のつながりに関心を持ちながら、生命を尊重しようとしている。

○本学習で変容を促すESDの価値観

・自然環境、生態系の保全を重視する。

福住の豊かな自然の良さに改めて気づき、その良さを守りたいという思いを持ち、自分たちが町の魅力を発信しようと考え行動する。

・幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自分たちの住む福住の町は、自然豊かでありその中で日常を過ごせていることに対する幸福を実感する。

○達成が期待されるSDGs

15 陸の豊かさを守ろう(陸上資源・陸の豊かさ)

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1 身近な秋の自然の特徴や四季の変化に気づいている。	1 身近な秋の植物や動物を探し、気づいたことや感じたことを自分なりにまとめている。	1 福住の秋の自然について意欲的に調べたり関わったりしようとしている。
2 遊びの楽しさや、遊びを創り出したり工夫したりする面白さに気づいている。	2 身近にある自然物を利用したおもちゃや飾りを工夫して作っている。	2 身近な自然を利用して友だちと協力しながら楽しく遊ぼうとしている。
	3 豊かな自然を利用した遊びを考えたり、遊びの約束やルールなどを考え、楽しく遊べるように工夫したりしている。	3 福住の豊かな自然を大切にしようとしている。

5. 単元の指導計画（全 18 時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
1	◎秋の植物や動物には、どのようなものがあるかを出し合う。	・休み時間に見つけた植物や動物を思い出すよう声掛けをする。	
2	◎学校にある秋を調べる。 ○秋ビンゴを使って、どのような植物や動物が存在するかを調べる。 ○見つけた生き物を捕まえたり、植物を集めたりする。 ◎見つけた秋の中で、心に残っていることを生活科シートに絵と文でまとめる。 ◎福住の町にある秋を調べる。 ○学校の秋を調べた時と同様の秋ビンゴを使って、どのような植物や動物が存在するかを調べる。 ○見つけた生き物を捕まえたり、植物を集めたりする。 ◎見つけた秋の中で、心に残っている	・秋ビンゴに印をしていくことで、たくさん秋を見つけようという意欲が湧くようにする。 ・ビンゴの中から、自分が一番書きたいものを選んで感想を書くようにすることで、書くことが苦痛にならないようにする。 ・絵と文どちらを先に書いても良いことを伝え、書く活動に入りやすくする。 ・捕まえた生き物について、飼育するか逃がすかを決め、命を大切にすることを伝える。 ・学校での活動と同様のビンゴを使用することで、学校の外にはさらにたくさんの秋があることに気づくことができるようにする。	△ウ① （主体的） △ア① （知・技） △イ① （思判表） △ウ① （主体的） △ア①

	ことを生活科シートに絵と文でまとめる。	ついて書くように促す。 ・絵と文どちらを先に書いても良いことを伝え、書く活動に入りやすくする。 ・捕まえた生き物について、飼育するか逃がすかを決め、命を大切にすることを伝える。	(知・技) △イ① (思判表)
3	◎見つけた秋の自然を並べたり触ったりして、どのような遊びやおもちゃができるかを考える。 ・どんぐりや落ち葉を使っておもちゃを作る。 ・あさがおのつるでリースを作る。 ・どんぐりごま ・木の実の楽器 ◎学校で見つけた秋や家で見つけた秋の自然物を使っておもちゃや飾りを作る。 ・どんぐりごま ・どんぐり楽器 ・あさがおリース ◎おもちゃや飾りを作ったことについて絵や文でまとめる。 ○おもちゃの作り方や遊び方、遊んだ感想などを書く。 ・はこにどんぐりを入れたら音がなるかなとおもって入れた。きれいな音になったよ。 ・どんぐりごまをまわしてみたら、はやくはげしくたくさんまわった。 ・あさがおのつるできれいなリースの形が作れてうれしかった。	・自然を利用した遊びをしたことがあるかを聞き、これまでの経験からどのような遊びができるか考えられるようにする。 ・自分の家の周りで見つけた秋のものを使ってもよいことを伝え、考えの幅が広がるようにする。 ・箱や紐など家庭で使わなくなったものを再利用しておもちゃに使ってもよいことを伝える。 ・箱や紐など必要なものを事前に準備しておくよう声掛けをする。 ・箱や紐を集められない児童のために、いくつか用意しておく。 ・製作活動をしていた時に一番心に残ったことを思い出し、詳しく書くよう声掛けを行う。 ・作り方や感想など、書く内容は子どもたちが書きたいと思ったことについて書くよう促す。	△ウ① (主体的) △イ②③ (思判表) △ウ② (主体的) △ア② (知・技) △ウ③ (主体的)
4	◎『ふくすみのあきブック』を作る。 ○オリジナルあきビンゴを作り、これまでの成果物とともに綴る。 ○秋見つけの学習を通して感じたことをまとめる。	・来年度入学してくる子どもたちにプレゼントすることを伝え、学習意欲が高まるようにする。 ・自然の中で学習できていることに気づかせ、豊かな自然に感謝し、守りたいという気持ちが持てるようにする。	△ウ③ (主体的)

6. 成果と課題

本実践の結果得られた成果は、大きく4つある。

① 継続して意欲的に活動に取り組むことができた。

本学級の児童は、好奇心旺盛でどのような取り組みにも意欲的に取り組むことができるが、意欲を継続させることが難しい。しかし、本単元で身の回りの自然を見つけその魅力を発信することを最終目標にすることで、単元の終わりまで継続して意欲的に取り組むことができた。

② 気づいたことや感想を自分なりの言葉にできるようになった。

1学期に生活科シートを書く際には、何について書けばよいのかわからずなかなか書き上げることができなかったが、本単元の活動では、どの時間も自分なりに持った感想を進んで書こうとする姿が見られた。文章を書くことが苦手な児童も「どんなことが一番心に残った?」「何について一番書きたい?」と聞くとすぐに答えることができ、自分なりに一生懸命文章を考える姿が見られた。生活科シートだけでなく、日記や作文を書く際も消極的な言葉が出ることがなくなり、より良い文章が書けるよう集中して取り組む姿勢が見られるようになった。

③ 身近な自然にたくさん気づくことができた。

秋ビンゴを使用したことで、より多くの秋を見つけようとする姿が見られ、春や夏に学校や公園を探検した際よりもたくさんの自然に気づくことができた。普段何気なく通っていた通学路や公園にある自然に改めて気づくことができた。2年生と合同で町探検に出かけたことでより多くの自然に気づけたと考える。2人では気づけなかった秋に気づいている場面や自分たちも負けずにたくさん見つけたいという思いから周りをよく見て探検する姿が見られたからである。

④ 生き物の命のつながりや大切さに気づくことができた。

校内で見つけたカマキリを自分たちで飼育したことにより、バッタやちょうちょうを食べる姿を見たり、カマキリが卵を産む瞬間を何度も見たりすることができた。これにより、私たち人間と同じように生き物の中でも命のつながりがあることに気付くことができた。また、生きるために他の生き物の命をいただいている様子を見て、命の大切さに気付くこともできた。

一方で課題は、3つある。

① 四季の変化として捉えることがあまりできなかった。

身近にある自然にたくさん気づくことができたが、その様子が春や夏とどのように変化しているかに気づかせることがあまりできなかった。これは、指導者からの声掛けが足りなかったと感じている。

② 町の魅力を伝える必要性に気づかせることができなかった。

身近にあるたくさんの自然に気づき、自然を利用して生活を豊かなものにできると気づくことができたが、豊かな自然環境に恵まれていることや環境保全のために自分たちが町の魅力を伝えていく必要があるという気づきまでは至らなかった。

③ 振り返りの力があまりない。

見たり体験したりしたことへの感想や気づきを自分なりの言葉にできるようになったが、活動を振り返って自分ができるようになったことなどを考える力は、まだついていない。これは、他教科にも言えることだが、現段階では客観的に自分を振り返り文章表記することは難しい。他教科でも自分なりに目指す姿を明確にし、どのように成長したのかを振り返る練習が必要である。

以上のことから、指導者として、児童が継続して意欲的に取り組む活動を考える重要性和各教科の目標をよく理解することの重要性を実感した。どの教科においても学級に応じて児童がわくわくする取り組みを考えることで、大きな成果を得られることが分かった。わくわくする取り組みを考えるためには、児童とたくさんの時間を共有したくさんの会話をしなければならないと改めて感じた。今回は、児童が好きなことや苦手なことをたくさん話してくれており、どんなことがしたいかをたくさん教えてくれていたため、わくわくする取り組みに気づくことができた。今後も児童とのコミュニケーションを大切に、継続して意欲的に取り組める活動を考えていきたい。

ESDティーチャーとして各教科の目標を踏まえたうえで、ESDの資質・能力の育成を目指さなければならないが、ESDの視点と単元の目標を関連付けた指導があまりできなかった。今後は、どの教科もしっかりと単元の目標を理解し、ESDの資質・能力を養うためにはどのような実践が良いのかを考える必要がある。



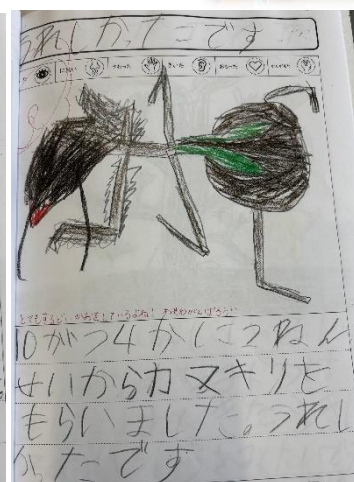
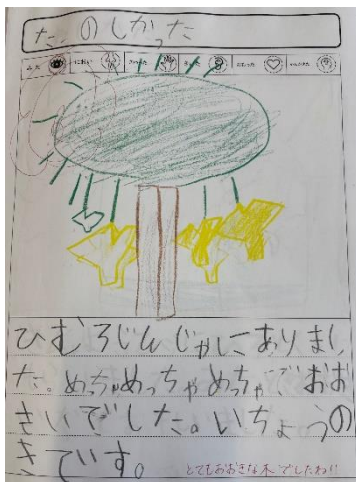
どんぐりを使ってどんなことができるかを考え、自分たちが作りたいと思ったこまと楽器を作った。作ったもので自分たちなりに工夫して、楽しく遊ぶことができた。



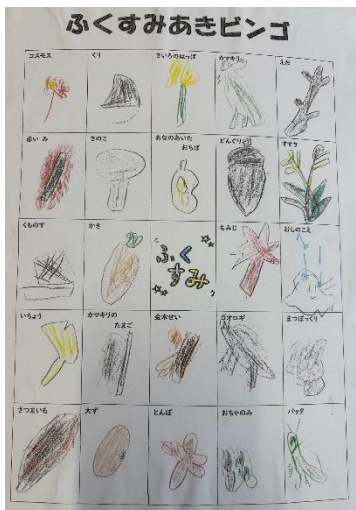
自分たちが育てたあさがおのつるで、楽しく積極的にオリジナルリースを作ることができた。



見つけたカマキリを楽しく飼育することができた。産卵の様子も見ることができ、命のつながりや、大切さに気付くことができた。



町探検に出て、見たものや気づいたことをまとめる活動を行うことで、福住の豊かな自然の良さに気づくことができた。
豊かな自然が恵まれていることだと気づくまでには、至らなかった。



見つけた秋でオリジナルビンゴを作った。自分たちの町には、どのようなものがあったのか振り返りながら作成し、多様な植物や生き物が存在していることに改めて気づく機会となった。

カリキュラムマネジメント

国語科「なにに 見えるかな」(東京書籍)

葉っぱや木の実を並べて、いろいろな形を想像し、友だちと伝え合う活動を行う。

生活科でおもちゃや飾りづくりをする時のヒントとなり、どのようなものを作りたいかを考えることができる。

どんぐりをつな
げると人のかた
ちに見えるよ。

どんぐりとはっぱ
でちょうちょうみ
たいになったよ。

第1学年 生活科「ふくすみのあきをみつけよう」

○主に養いたい ESD の資質・能力

- ・進んで参加する態度

自分たちの町にある秋を見つけ、自然物を利用した楽しみ方を考え、友だちと一緒に遊んでみたり次の1年生に伝える方法を考え実行したりする。

- ・つながりを尊重する態度

自然などの生態系のつながりに関心を持ちながら、生命を尊重しようとしている。

- ### ○主に育てたい ESD の価値観

- ・自然環境、生態系の保全を重視する。

福住の豊かな自然を守るために、自分たちが魅力を発信しようとする思いをもつ。

- ・ 幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自分たちの住む福住の町は、自然豊かでありその中で日常を過ごせていることに対する幸福を実感する。

生活科 「ふゆとともだち」
(光村図書)

「ふくすみのあきをみつけよう」
で学んだことを活かし、冬みつけを
行うことができる。秋の自然物の様
子と比べて冬はどのようになっている
のかを考え、福住の魅力をさらに
発見できる。

いろいろなところにこ
おりができていますよ。

図画工作科
「さわりごこちはっけん」
(日本文教出版)

身の回りにある様々なものの感触を味わう活動により、秋のものに親しむことができる。

木ごっごっ
はっばはさらさら

はっぱのいろをすこしずつ
つかえてならべたよ。

国語科 「はっけんしたよ」 (東京書籍)

身の回りの花や木、生き物などの様子を友だちに伝える活動を行う。発見したものの様子をよく見て、気づいたことを書くことで、生活科の秋見つけは、どのような視点で自然物を観察するとよいかわかる。

大きなカマキリを見つけたよ。
かまがギザギザしているよ。

生活科

「なつとともにだち」
(光村図書)

学校や公園などにある自然物に触れる活動を行う。自分たちの町にどのようなものがあるのかをよく見る機会となる。

いえにクワガタがいたよ。

ぼくたちが作ったおもちゃで
いっしょにあそびたいな。

生活科 「もうすぐみんな2年生」
(光村図書)

新しく入学してくる1年生を招待し、交流をする時間がある。その際に福住の魅力を伝えたいという願いを持つことが期待できる。

この町にある自然をたくさん伝えてあげたいな。

図画工作科
「ならべてならべて」
(日本文教出版)

身の回りにあるものをなべてみる活動により、自然のものの形や色に気づき、それらを利用した遊びに繋げることができる。

現在の学年終了時に目指す姿

自分たちの住む町の豊かな自然の魅力に楽しみながら気づき、自然を守っていくために町の魅力を伝えていこうとする。